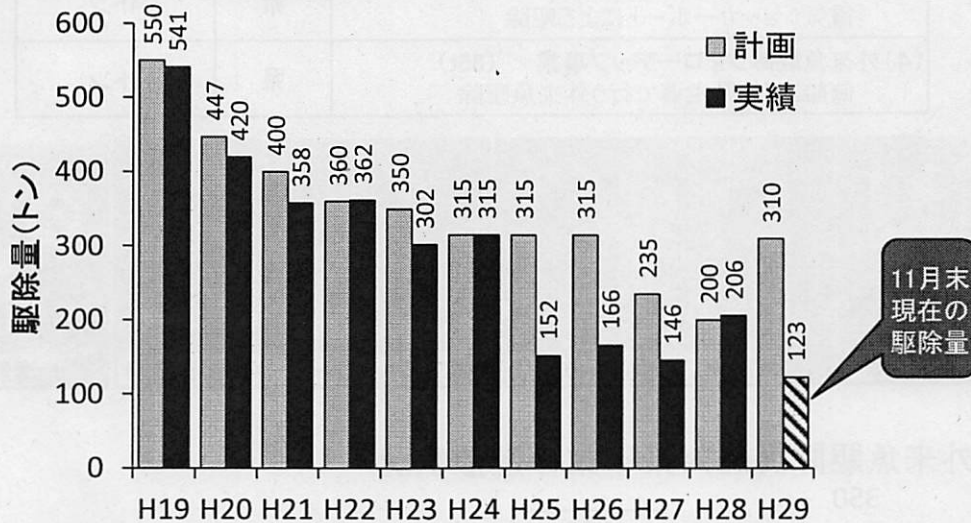


琵琶湖における外来魚の 推定生息量について

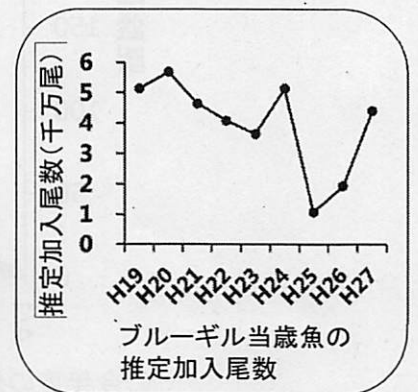
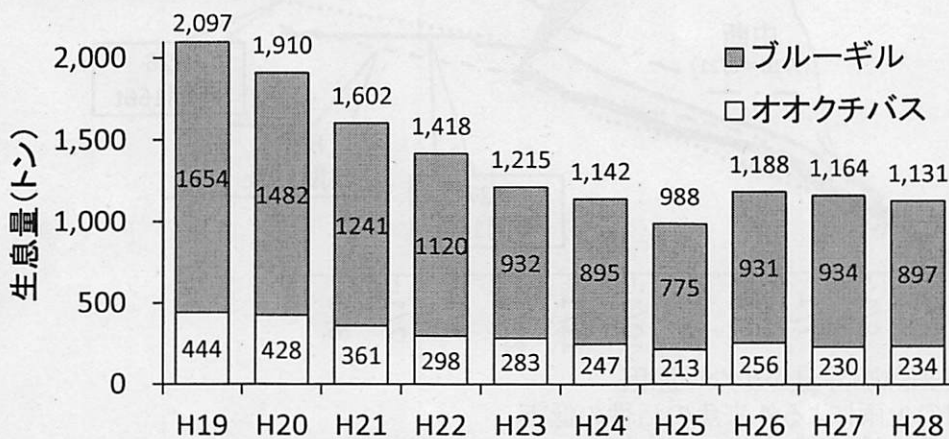
最新のデータをもとに外来魚の生息量を推定した結果、平成25年を境に推定生息量が増加に転じたが、平成26年以降の推定生息量は停滞し、平成28年の推定生息量は1,131トンと推定された。

1. 外来魚駆除促進対策事業の経過



- 平成24年までの駆除量は、300トン以上の計画量を達成。
- 一方、平成25～27年の駆除量は、天候や水草の繁茂、国補助金の不足により計画を大幅に下回る状況。
- 平成28年は国補助金が不足していたため駆除を中断したが、県漁連の自主財源等により計画量は達成。
- 今年度は外来魚が獲れない状況が続き、計画に対して駆除量が少ない状況。

2. 外来魚推定生息量



- 生息量が平成26年に増加した要因は、平成24年に生まれたブルーギルが多かったこと、その後、駆除が停滞したことにより、生存する外来魚が多くなったためと考えられる。
- 一方、昨年の推定では平成27年にさらに増加となっていたが、今回の推定では平成26年以降は停滞している。これは平成25、26年に生まれたブルーギルが少なかったためと推測している。
- 生息量推定は水産資源の解析手法であるコホート解析を適用。この解析では、同じ年生まれの外来魚の生息量を、順次、年齢分だけ過去に遡って計算し直すため、推定値は前回のものとは異なる。
- 今後も精度向上のため外来魚の新たなデータや各種調査結果により推定値を更新するため、既存の推定値からずれが生じることがある。

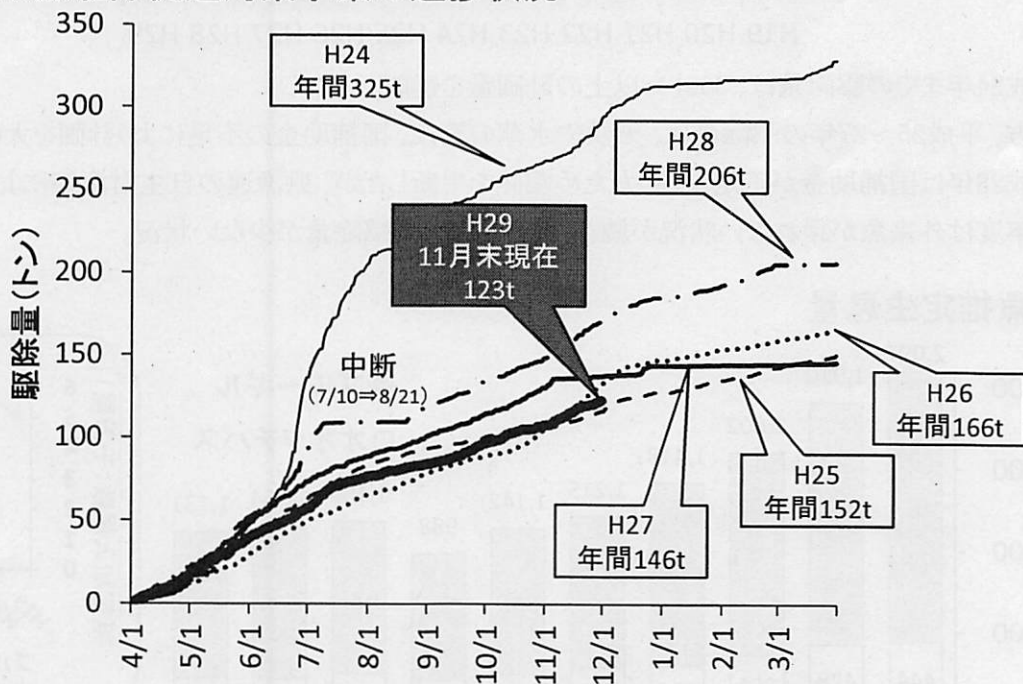
3. 今年度の外来魚駆除の取組

○駆除目標を昨年の生息量推定から、増加傾向の外来魚を減少に転じる駆除量を350トンと設定して、以下の取組を実施。

有害外来魚ゼロ作戦事業(駆除目標)	実施主体	今年の11月末現在の駆除実績
(1)①駆除促進対策事業 (310t) 漁業者による既存漁法による駆除	県漁連	123トン
②繁殖抑制対策事業 (600万尾) 漁業者による外来魚稚魚の駆除	県漁連	集計中
(2)外来魚回収処理事業 外来魚の回収・有効利用	県漁連	
(3)外来魚産卵期集中捕獲事業 (5t) 電気ショックカーボートによる駆除	県	4トン
(4)外来魚駆除フォローアップ事業 (35t) 備船により県主導で行う外来魚駆除	県	5トン



4. 今年度の外来魚駆除促進対策事業の進捗状況



- 今年度の外来魚駆除量が少ない原因
- ・梅雨時期の少雨による外来魚の活性の低下
 - ・年間駆除量の約3割を占めていた南湖の刺網の従事者の減少傾向

5. 今後の対応

- 琵琶湖保全再生法に基づき、国に対して十分な支援が得られるよう要望中。
- 捕獲状況に応じて、備船による積極的な駆除を行うなど、効果的な取組を実施。
- 駆除が進まない要因をさらに探るとともに駆除方法の見直しを行う。